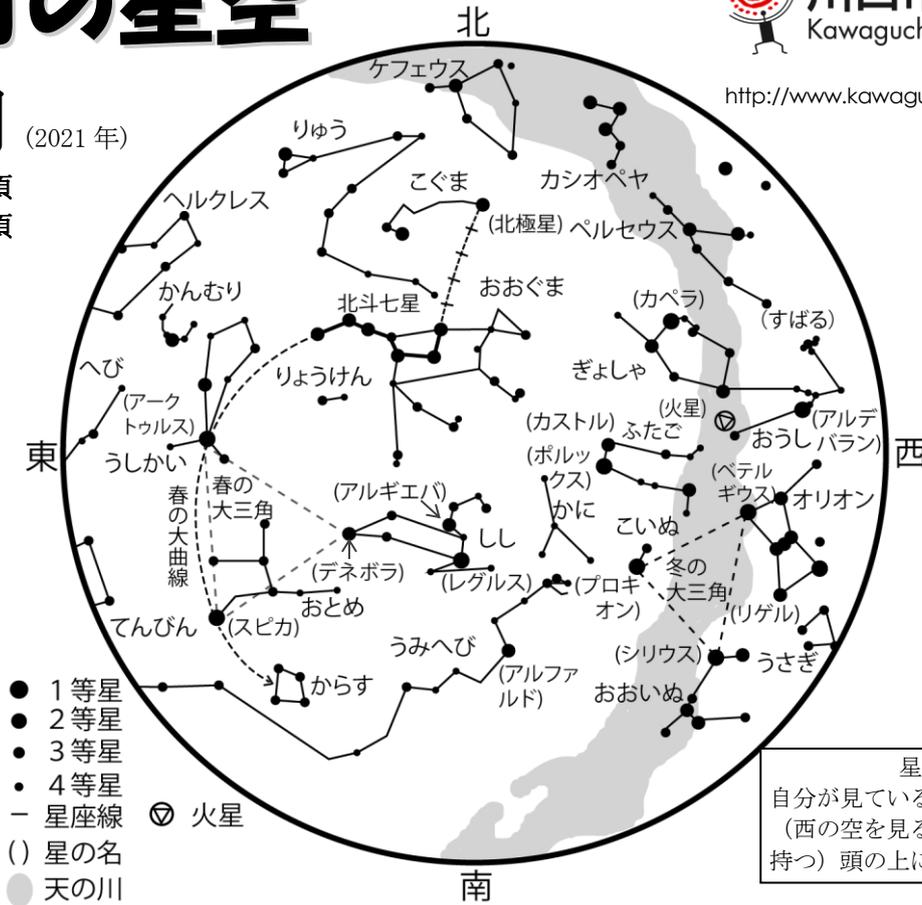


今月の星空

4月 (2021年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方向を下にして、
(西の空を見るときは西を下にして
持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ● 下弦 4日、● 新月 12日、● 上弦 20日、○ 満月 27日

惑星情報

火星 夜のはじめ頃 西 (おうし座→やぎ座 1→2等)

木星 明け方 南東 (やぎ座→みずがめ座 -2等)

土星 明け方 南東 (やぎ座 1等)

☆春の夜空の大きな星座たち～しし座、うみへび座、おおぐま座～

寒空に多くの1等星が鋭く輝いていた冬の星空に比べると、明るい星が少なく、どこことなく春の穏やかな気候のような落ち着いた印象の春の星空。星の間隔が広く、星座が大きいいため、市街地で星座を探す場合は、なるべく視界の開けた場所を選ぶと良いでしょう。

南の空のしし座の1等星レグルスを目印に、その上方のアルギエバ(2等)、東にやや離れたところにある、ししの尾にあたるデネボラ(2等)をたどってみましょう。また、レグルスの下方にあるうみへび座のアルファルド(2等)も周囲に目立つ星がなく見つけやすい星。うみへび座は、アルファルド以外の星は暗めですが、星図のとおりとても長く、全天88星座一の大きさを誇ります。北の空に目を向ければ、おおぐま座の一部となっている北斗七星が見つかります。

－ ワンポイント 恒星も動く!? 北斗七星の未来 －

北の空で7つの恒星がひしゃくの形に並ぶ北斗七星。これらの恒星は、複雑に動く惑星に対して、夜空に張り付いて互いの位置関係が変わらない星とされてきました。しかし、18世紀、天文学者のエドモンド・ハレーは、当時と2世紀頃の星表を比べることで、星の位置にずれがあること(星の固有運動)を発見しました。右図のとおり、北斗七星の場合、10万年後には、現在とは逆方向のひしゃくのような形になるとみられています。

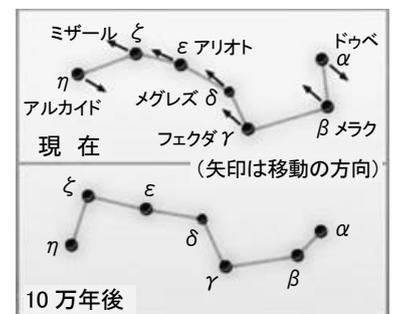


図 北斗七星の並びの変化(固有運動)
(提供: 国立教育政策研究所)

☆明け方の木星と土星、夜のはじめ頃の火星

昨年12月、夕方の西の空で大接近して話題となった木星と土星は、明け方の東側の空に見られるようになりました。見える時間帯や方向が変わる主な理由は、地球の公転により位置関係が変わるためです。今後、木星と土星が夜のはじめ頃に見られるようになるのは夏以降となります。

また、夜のはじめ頃、西の空では1等星の明るさの火星が冬の星座たちに囲まれるような位置にあります。明るい星が多い冬の星座に紛れ込んだような火星を見つけてみましょう。